



調印式。バー・ミンミヤンマー国鉄総裁（右）とユイインヨンラッタナクル ナレントーンオリエンタルコンサルタンツグローバル軌道交通技術第一部副部長

ヤンゴン・マンダレー鉄道整備フェーズII

施工監理を受注

オリエンタルコンサルタンツグループを代表とする共同事業体は、ミャンマーの主要3都市を結ぶ重要幹線鉄道「ヤンゴン・マンダレー鉄道整備事業フェーズII施工監理業務」を受注した。契約額は約63億6000万円。フェーズIに続いての受注となる。22日には契約調印式が同国首都ネピドーのミャンマー国鉄本社で行われた。

オリコンサルグローバルらJV

同鉄道は、同国最大の商業都市ヤンゴンと首都ネピドー、第2の商業都市であるマンダレーを結ぶ約620kmの重要幹線で、同国の経済動脈

車両調達などを含む鉄道の改修・近代化を実施。オリエンタルコンサルタンツグループと日本コンサルタンツ、パンフィックコンサルタンツ、日本工営、トニーチコンサルタント、オリコンサルグローバルのミャンマー現地法人Oriental Consultants Japanで構成する共同事業体が施工監理のコンサルティングサービスを提供する。契約期間は約100カ月間。

としての役割を果たしている。一方で路線の多くが英国植民地時代に建設されており、橋梁の老朽化や劣化によって列車速度が上がらず、線路のゆがみによる列車事故も発生しており、早期の鉄道改良と近代化が求められている。

2018年11月に起工式が行われたフェーズI（ヤンゴン〜タウンゲ間の約270km）に続き、今後早期の全区間改修完了を目標にフェーズIIの改修事業を促進する。

全事業終了後には現在14時間を要するヤンゴン・マンダレー間の乗車時間が約8時間に短縮される予定だ。